

日にち夜や語かたりつづけて、其その弟おとふと桃たう羽すい卒すいなど云いが、朝あさ夕ゆふ勤つとめ

とぶらひ、自みづからの家いへにも伴ともなひて、親しん属ぞくの方かたにもまね

かれ、目めをふるまゝに、ひとひひとひ郊外かうぐわいに逍遙せうえうして、

一般

段級

【奥の細道】  
 うれしくて毎日毎夜語り続けた。彼の弟の桃翠などは朝タニコへ通いつめ、また自分の家にも招いてくれたりした。一族の方々にも招待されるなど、日数を重ねていたある日、郊外を散策し、

